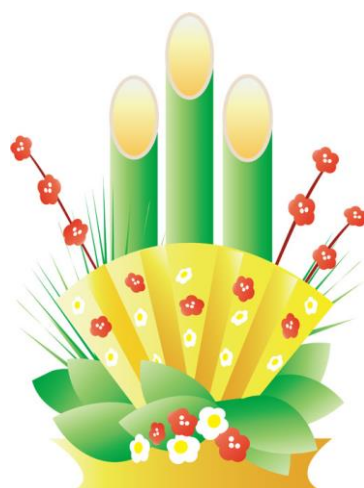


《俳句クラブ》



兼題 (自由題)

団らの夕べ新米香り立つ	上羽 貞弘
洪水調節のダムに鴨来たる	深見 彰生
雀らの影が動けり白障子	日種 晁
衣服脱ぎ十字架となる案山子達	高田 勝
冬晴や柱に残る刃傷	高本 陽子
混声の調べホールを包む秋	中井 芳樹
竹の樋鳴りて時雨るる詩仙堂	梶谷 ゆり子
山城に色なき風の吹き渡る	丸田 久美子
小鳥来る窓辺に野菜刺して置く	大高 松男

《川柳くらぶ》

十月 句会 研究句 「さんま」



句さんま冷凍ものに目が泳ぎ	渋谷 訓生
温暖化さんまは北の海へ逃げ	水船 修
熱い海泳ぎすぎたか痩せさんま	中井 芳樹
鰯焼き秋刀魚の姿浮かべ食う	小西 茂
高級になって秋刀魚が目を覚ます	千足 千
ニュースから消えた目黒のさんま様	原 三郎
秋刀魚高絵に描き写メ撮りやっとな焼	水谷 毅
秋ですれ隣も秋刀魚焼いている	稲垣のぶ久
十一月 句会 研究句 「足」	
出張の帰りに実家に足伸ばし	水谷 毅
じゅういちで靴下をぬぐ得意顔	中井 芳樹
登山靴減るのは夜道歩き過ぎ	原 三郎
ドローンに足止め食らう飛行場	渋谷 訓生
足の指じゃんけんボンで脳刺激	水船 修
足元を見られたらしい堅い椅子	稲垣のぶ久
堀炬燵足で謝る外は雪	千足 千

《応募作品 川柳》

震災や四半世紀に影薄れ

野田 悦治(生環26期)

「な」行

情けない溝を跳ぼうと踏み外し
認知症物忘れとどう違う
ぬるま湯でウトウトうっかり濡れかけ
寝とほけてベッドから落ち尻を打ち
ノルマない定年迎えりや金がない

「は」行

パソコンを買ったがスイッチどこにある
「久し振り」声掛けられたが誰だっけ
振込み詐欺大丈夫だとは言いつれぬ
へそくりができる技量も元手なし
ポツカリと記憶が抜けてる時がある

知地 正紘(国際25期)

俳句・川柳 募集中!

投稿はこちらから

